出題分析		
試験時間　90 分	**配点**　100 点 ※学部により異なる	**大問数**　3 題
分量（昨年比較）〔 減少 [同程度] 増加 〕		**難易度変化**（昨年比較）〔 易化 [同程度] 難化 〕

【概評】

〈現代文〉

大問二で、従来と比較すると随分と筆致の軽い随筆が出題された。

〈古　文〉

『玉勝間』はこれまでにも 2013・2006・1999・1980 年度でも出題されている。また、2025 年度は、和歌に関する設問は出題されなかった。

設問別講評

問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文（評論） 中井久夫 「現代社会に生きること」 〇行数：55 行	近代における都市化がもたらした弊害について論じた文章。問一の内容説明問題は「かわいらしい」という表現に皮肉がこめられている点に注意する。問二の内容説明問題は、自然と人間との分断とその弊害をまとめる。問四の内容説明問題は、人間どうしの交流が失われている点に言及する。 ※（昨年度）随筆、62 行、4 問（4）	標準 〈問題文〉 標準 〈設　問〉 標準
二	現代文（随筆） 佐野洋子 『友だちは無駄である』 〇行数：38 行	だらしない友人は自己の姿の投影であり、彼女の存在に救われていたことを述べた文章。問一の内容説明問題は、傍線部直後の段落の内容をまとめる。問二の内容説明問題は、「彼女」と「私」の関係性を踏まえる。問三の理由説明問題は、問一との書き分けに注意する。 ※（昨年度）随筆、46 行、3 問（3）	標準 〈問題文〉 標準 〈設　問〉 標準
三	古文（江戸・随筆） 本居宣長 『玉勝間』 〇行数：10 行	改善する努力もせずに、仮名遣いを誤り続けることをたしなめる文章。問一の現代語訳は「心すめれば」の解釈と、副詞「をさをさ」の呼応に注意する。問二の内容説明問題は、「てにをは」と「仮字づかひ」を対比させて、後者の誤りの多さを指摘する。問三の現代語訳は丁寧に品詞分解をする。 ※（昨年度）江戸・注釈書、9 行、3 問（3）	標準 〈問題文〉 標準 〈設　問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。京都大学の問題文は通常 56 字／行（20 行／頁）。

設問構成（設問数・形式・内容）													
大問番号	設問数（枝問総数※）	選択式枝問数	記述式枝問数	漢字	内容説明	理由説明	全文把握	空欄(脱文)補充	主語確認	現代語訳	訓読訓点	語句文法知識	その他
一	4 問（4）		4		4＞***4***								
二	3 問（3）		3		2＞***2***	1＞***1***							
三	3 問（3）		3		1＞***1***					2＞***2***			

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1 問」と数える）。

※「設問内容」の「＞」の後の***太字斜体の数字***は、記述式の枝問数を示す。

合格のための学習法

〈現代文〉

硬質な評論だけでなく、やわらかい文体の随筆も頻出であるので、さまざまなジャンルの文章にふれておくことが肝要である。

〈古　文〉

京都大の理系古文では、現代語訳と内容説明問題が頻出である。問題文を丁寧に読解することを意識したうえで、端的にまとめる記述力を身につけよう。近年では、和歌や言葉に関するテーマをとり扱う文章の出題が多いため、和歌の技法などは必ず確認しておくこと。